

報道関係各位

2026年8月4日

**MITテクノロジーレビュー[日本版] 特別編集
『ポスト都市時代の社会デザイン 社会実装都市 ひろしま』
—出版記念イベントを叡啓大学（広島県）で開催—**

本誌に登場する実践者・支援者が登壇
地域課題を事業化し、共創で育てる広島の実践を紹介

株式会社角川アスキー総合研究所（本社：東京都文京区、代表取締役社長：垣貫真和）は、当社が発行する『MIT Technology Review [日本版] 特別編集 ポスト都市時代の社会デザイン 社会実装都市 ひろしま』の出版を記念し、2026年6月26日（金）に叡啓大学で開催された出版記念イベントの開催に協力しました。

本誌は、都市機能、製造業の集積、海や山などの自然環境を併せ持つ広島を、イノベーションの社会実装に適したフィールドとして捉え、地域全体で挑戦を後押しするエコシステムや、広島で実践を重ねる変革者を紹介する特別編集ムックです。

出版記念イベントでは、「社会実装都市 ひろしま」をテーマに、地域における新たな価値創造や共創の可能性について議論しました。叡啓大学ソーシャルデザインセンターによる開催趣旨説明に続き、広島で事業創出や社会課題解決に取り組む実践者、地域の共創を支える行政・金融・企業・スポーツクラブの関係者が登壇し、社会課題を起点に事業を生み出し、地域で育て、実装につなげるための視点が共有されました。



■開催趣旨説明：叡啓大学ソーシャルデザインセンターが担う役割

冒頭では、叡啓大学ソーシャルデザインセンター（SDC）の取り組みと、本誌の企画趣旨が紹介されました。

叡啓大学は、広島県が社会課題の解決とイノベーションの創出を目指して設立した公立大学です。その中でSDCは、産学官連携・研究推進の拠点として、大学の中立性、多様な専門知、仮説検証型のアプローチを生かし、地域課題の解決に向けた共創を支えています。

開催趣旨説明では、広島が都市機能、製造業、農水産業、山・川・海・島といった多様な環境を併せ持ち、実証から実装までを進めやすい地域であることが示されました。社会や産業の前提が変化する中で、地域の現場にある課題を見つけ、関係者をつなぎ、解決策を試すことの重要性が共有されました。

■第1部：未来はなぜ広島から生まれるのか ― 次世代の変革者たちの挑戦 ―

第1部では、広島を拠点に社会課題の解決や新たな事業創出に取り組む実践者が登壇しました。

議論では地域に残された資源や未解決の課題を、どのように事業の起点へと転換するかが焦点となり、元倉庫を再生したコミュニティ施設、酪農・食品事業の価値再定義、平和活動を継続可能な事業へと転換する取り組み、VRを活用した医療・製造業向け教育、自律航行技術による離島交通の課題解決など、各分野の事例が紹介されました。

第1部を通じて示されたのは、地域課題を単なる制約として捉えるのではなく、社会実装の出発点として向き合う姿勢です。広島には生活、産業、教育、平和、交通といった多様な現場があり、課題の近くで仮説を試し、事業として磨き込む土壌があることが共有されました。

登壇者：

株式会社DoTS 代表取締役社長 谷口 千春氏

砂谷株式会社 取締役副社長 久保 宏輔氏

特定非営利活動法人PEACE CULTURE VILLAGE 専務理事 住岡 健太氏

株式会社ビーライズ 代表取締役CEO 波多間 俊之氏

株式会社エイトノット 代表取締役CEO 木村 裕人氏

■第2部：未来はなぜ広島で育つのか ― 共創が育む地域の力 ―

第2部では、行政、金融、スポーツ、製造業の視点から、地域で挑戦を育てるための環境づくりについて議論しました。

広島県からは、都市的な課題と中山間地域の課題が近接し、ものづくり産業の集積もある広島が、多様な挑戦を生み出しやすい地域であることが示されました。金融機関の立場からは、資金提供にとどまらず、企業の課題や成長戦略の早い段階から関わる重要性が共有されました。

また、まちなかスタジアムを起点とした地域共創、複数事業を横断して技術や人材を生かす製造業の経営など、地域のさまざまな主体がそれぞれの強みを持ち寄ることで、新たな価値を育てる可能性が語られました。社会実装は一社・一組織だけで完結するものではなく、行政、企業、金融機関、大学、地域コミュニティがつながることで継続的に育つという視点が共有されました。

登壇者：

広島県知事 横田 美香氏

ひろぎんホールディングス 代表取締役会長 部谷 俊雄氏

株式会社サンフレッチェ広島 代表取締役社長 久保 雅義氏

株式会社モルテン 代表取締役社長 最高経営責任者 民秋 清史氏



■開催概要

イベント名：『ポスト都市時代の社会デザインー社会実装都市ひろしまー』出版記念イベント

日時：2026年6月26日（金）13:30～15:00

会場：叡啓大学 15F EIKEI TOP

主催：叡啓大学ソーシャルデザインセンター（SDC）

協力：株式会社角川アスキー総合研究所

■書誌情報

MIT Technology Review [日本版] 特別編集

『ポスト都市時代の社会デザイン 社会実装都市 ひろしま』

定価：1,650円（本体1,500円＋税）

発売日：2026年5月29日（金）

ISBN：9784049113075

判型：A4判、100ページ

発売：株式会社KADOKAWA

発行：株式会社角川アスキー総合研究所

公式サイト：

<https://www.technologyreview.jp/s/383613/hirosima-special-issue-has-now-arrived/>

最前線レポート 未来を試す地方都市の社会実装力／次代を変える挑戦者11人



概要：

広島を社会実装のフィールドとして捉え、地域で生まれる共創とイノベーションの可能性を紹介する特別編集ムックです。本誌では、広島で進む社会実装の現場や、それを支える大学・行政・企業・地域の取り組みを、MITテクノロジーレビュー [日本版] ならではの視点で紹介しています。

■MITテクノロジーレビュー [日本版] について

『MIT Technology Review (MITテクノロジーレビュー)』は、1899年に米国マサチューセッツ工科大学によって創設されたテクノロジーメディアです。日本版は、米Technology Review Inc.とのライセンス契約のもと、株式会社角川アスキー総合研究所が2016年から運営しています。

テクノロジーの最新動向を、事業戦略、研究開発、新規事業、投資、政策などに関わるビジネスパーソンに向けて、意思決定の手掛かりとなる情報を発信しています。

MITテクノロジーレビュー [日本版] 公式サイト：

<https://www.technologyreview.jp/>

法人・団体からのお問い合わせ

株式会社角川アスキー総合研究所 MITテクノロジーレビュー メディア担当

Mail：mediarelations@technologyreview.jp

■株式会社角川アスキー総合研究所について

角川アスキー総合研究所は、メディア運営を通じて蓄積した各分野の専門知見、企画設計力、情報発信力、専門家・事業者とのネットワークを活用し、企業、官公庁、自治体などの課題解決を支援しています。

事業内容：

メディア運営、調査・コンサルティング、各種マーケティング、ソリューション事業、出版、教育支援事業ほか

公式サイト：<https://www.lab-kadokawa.com/>

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

株式会社角川アスキー総合研究所 広報担当：堀

press-cp@lab-kadokawa.com